

コーヒーを入れた浣腸のやりすぎに注意

先ほど、重症の下剤減量プログラムの項で高圧浣腸のことをご説明しました。この高圧浣腸に関して、最近困った問題があります。「コーヒーを入れた浣腸」です。

コーヒーを入れた浣腸は肛門から管を入れそこからコーヒー液を注入し、大腸内の便を排出させる方法で、インターネットなどで浣腸の器具を購入することもできるようです。これは医師の立場から見れば、いわゆる「高圧浣腸」と同じ作用です。

高圧浣腸は従来、ぬるま湯を筒に入れて上につるすことで圧をかけて、腸内にぬるま湯を入れる方法で、医療機関で行われるべきものです。下剤を服用していても便が硬くて排便が困難な場合や、開腹手術で腸管が癒着し、便がつまってしまった場合などに有効とされています。週に1回程度行うのが基本で、やりすぎは逆効果です。

ところが、来院した患者さんの中に、コーヒーを入れた浣腸を1日2回、2年以上にもわたって毎日行ってきたという人がいました。

176

その結果、浣腸以外の方法で、排便ができなくなってしまったというのです。無理やり腸を刺激することをくり返してきたため、直腸反射が完全に消失してしまったわけです。浣腸を行わなければならないため、外出が難しいことも患者さんの大きな悩みでした。

下剤よりも強い刺激を与え続けてきたわけですから、治療は困難を極めました。酸化マグネシウム製剤はあまり効果が認められず、防風通聖散を投与しました。そして、様子を見ながらコーヒーを入れた浣腸を1日1回にへらしたところ、排便できる日がふえてきました。この調子でこれから先もさらに浣腸を減量していくことを考えています。

このように、下剤と同様、浣腸も自己判断で行い続けることは非常に危険なのです。